

経営比較分析表（令和元年度決算）

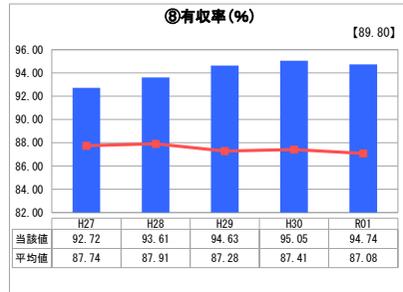
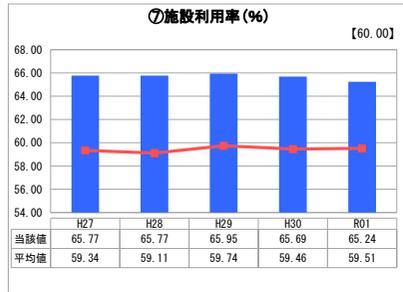
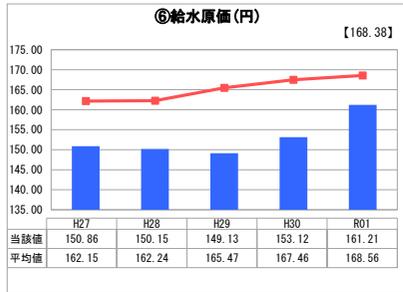
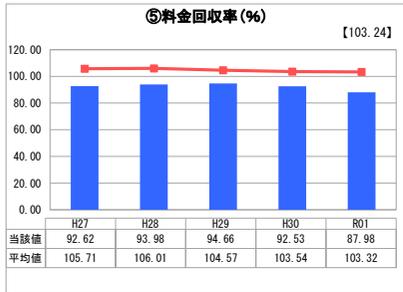
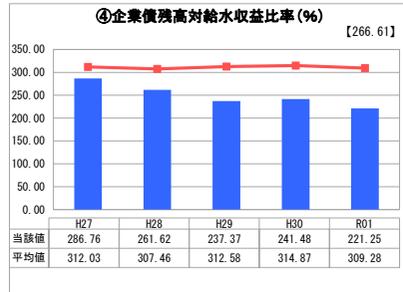
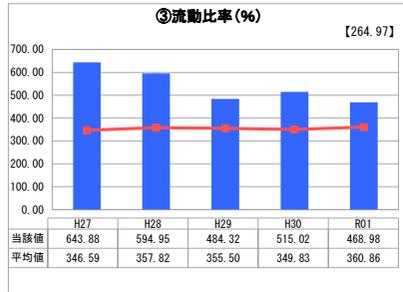
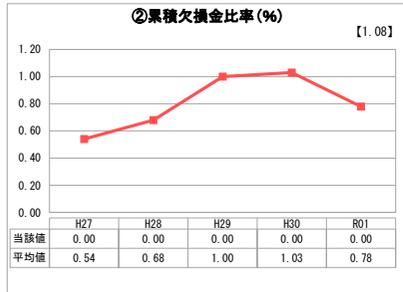
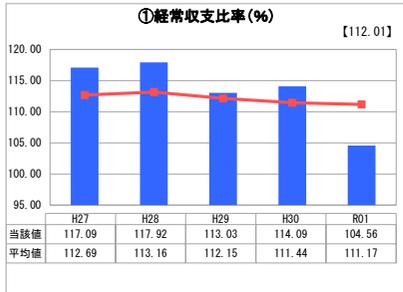
埼玉県 志木市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり客塵料金(円)	
-	76.18	100.00	2,288	

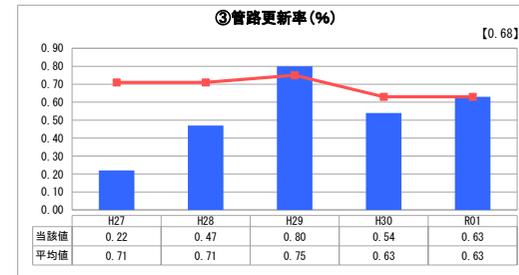
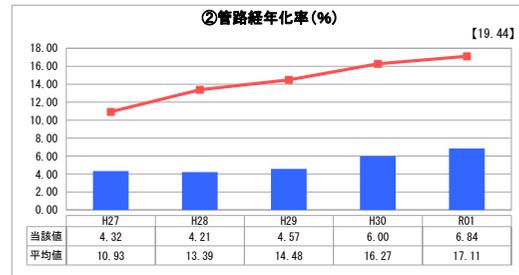
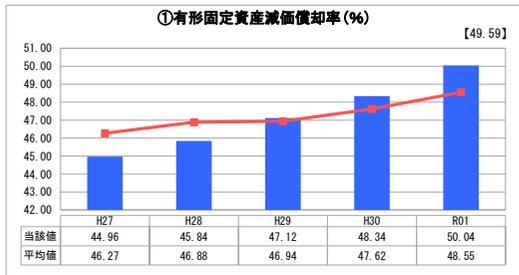
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
76,474	9.05	8,450.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
76,838	9.05	8,490.39

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
令和元年度は給水収益や加入金の減少に加え、浄水場設備の更新に伴う減価償却費の増加により、平均値を下回りました。将来的な大規模開発等の予定は無く、今後も厳しい状況が続くことが見込まれます。

②累積欠損比率
累積欠損金は発生していない状況ですが、加入金の減少及び減価償却費の増加が見込まれ、さらに今後は給水人口の減少や節水意識の向上により給水収益は減少が見込まれます。

③流動比率
類似団体平均値を上回っている状況であり、今後も建設改良費等に充てる企業債の借入等により、計画的な事業運営に努めていきます。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値を下回っておりませんが、今後は給水収益の減少や、経営戦略に沿った計画的な施設整備改善の財源として企業債を活用していくことにより、類似団体平均値に近づくことが見込まれます。

⑤料金回収率
類似団体平均値より下回っており、100%に満たない金額については、給水収益以外の収入（加入金等）で賄われている状況ですが、経常収支比率も低下していることから、今後の経営状況により料金の見直し時期の検討が見込まれます。

⑥給水原価
類似団体平均値を下回っていますが、令和元年度は大きく上昇していることから、今後もより一層の経費削減に努めていく必要がある状況を示しています。

⑦施設利用率
類似団体平均値より上回っている状況で施設の利用率は効率よく稼働していることを示しています。

⑧有収率
類似団体平均値より上回っている状況ですが、前年度と比較して若干減少していることから、有効に収益へつなげるため、今後も計画的な管路の漏水調査や維持管理（耐震化等）に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値を上回っており、資産の老朽化が進んでいる状況を示しています。今後は、浄水場設備の計画的な更新を予定していることに加え、管路経年率の状況から、数値の改善が見込まれます。

②管路経年率
類似団体平均値を下回っている状況を示しておりますが、昭和50年代に管路布設工事を多く行っているためであり、今後は、管路の経年化が進んでいく状況が見込まれます。計画的な更新を実施し、更新の標準化に努めていきます。

③管路更新率
類似団体平均値と同値となっておりますが、基幹管路・配水支管の更新についても計画どおり進んでおり、管路の更新率は、今後、向上していくことが見込まれます。

全体総括

志木市水道事業の現状としては、経営的には赤字ですが、料金回収率の数値が示すように、給水収益以外の収益（加入金）により賄っている状況は変わっていません。また、経常収支比率が悪化していることから、今後は厳しい経営状況が続くと予想されます。施設設備・管路等の更新に対する財源の確保のため、その費用に係る財源として企業債の活用を予定、そして適正な水道料金設定の見直し時期等について調査・検討を予定しております。また、経営戦略及び水道ビジョンも策定から年数が経過しているため、改定について検討しております。